

# 第33号

## 2005年8月

発行元：社団法人 家畜改良事業団 家畜バイオテクセンター  
 URL：http://liaj.lin.go.jp/(http://liaj.or.jp/ivf/)

### CONTENTS

NEWS 第7回 東京体外受精卵産子枝肉共励会  
 おじゃまりポート 神奈川県横浜市  
 おじゃまりポート 長野県南信酪農業協同組合  
 畜産新技術開発活用促進事業について



## News

### 第7回 東京体外受精卵産子枝肉共励会が開催(上物率 84%) 熊本県経済連・原田幸雄さんの「安福165の9」産子が最優秀賞!

7月13日～15日、第7回東京体外受精卵産子枝肉共励会が東京都中央卸売市場食肉市場で開催されました(主催：財団法人興農会、協賛：東京食肉市場株式会社、社団法人家畜改良事業団)。今回は11県16団体から合計43頭の出品がありました(去勢31頭、牝12頭)。

最優秀賞は、熊本県経済連の原田幸雄さん出品による「安福165の9」産子が受賞し、枝肉単価2,555円で競り落とされました。今回出品された43頭中、18頭(42%)が5等級に、18頭(42%)が4等級に格付けされ、上物率は

84%と好成績となりました。また、枝肉単価の平均は前回の1,971円から50円高くなり2,021円でした。

褒賞授与式において、主催者である財団法人興農会の海老澤理事長は「今後は体外受精卵産子の価値をさらに高め、ブランド化して出荷したい。そのためにはF1や乳牛の腹を借り、多頭数の発情を同期化して子牛を生産し、毎月一定頭数の出荷を行って、購買者にアピールすることが大事である。」と話され、体外受精卵の移植技術向上や産子のさらなる増産を目標として挙げられました。



**最優秀賞**  
**原田幸雄さん**  
 (熊本県菊池市)

種雄牛	安福165の9
性別	去勢
月齢	29
格付	A5
枝肉重量	510kg
ロース芯面積	84cm <sup>2</sup>
BMS No.	11
枝肉単価	2,555円
枝肉金額	1,303,050円





#### 種雄牛別成績

種雄牛名	性別	頭数	月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	ばらの厚さ(cm)	BMS No.	枝肉単価(円)	枝肉金額(円)
安福165の9	去	25	29.0	492.4	65.7	8.2	7.4	2,056	1,011,627
	牝	12	29.9	444.8	64.1	7.9	7.1	2,095	925,177
	計	37	29.3	477.0	65.2	8.1	7.3	2,069	983,589
美津福	去	2	30.0	407.0	47.0	7.1	4.0	1,841	746,002
福安福	去	2	31.0	430.5	50.0	6.7	3.5	1,617	705,467
北国7の8	去	2	29.0	541.0	65.0	8.5	6.0	1,723	942,296
全体	去	31	29.2	486.0	63.4	8.1	6.8	1,992	970,265
	牝	12	29.9	444.8	64.1	7.9	7.1	2,095	925,177
計		43	29.4	474.5	63.6	8.0	6.9	2,021	957,682

詳細なデータは当センターホームページ( http://liaj.or.jp/ivf/ )に掲載しております。



体外受精卵産子は、スモール市場や素牛市場など家畜市場で販売される事例が多いのですが、市場で販売せず、管内の肥育農家に販売して、地域ぐるみで体外受精卵移植に取り組んでいる産地もあります。

今回は、環境的に全く異なる神奈川県横浜市と長野県南信酪農業協同組合の取り組みを紹介します。

# 目指せ！ 横浜生まれ横浜育ちの 和牛ブランド！



昭和58年度から受精卵移植に取り組んできた神奈川県横浜市では、平成13年度から、一部の酪農家と肥育農家が体外受精卵を利用して「横浜生まれ横浜育ち」の和牛ブランド化を目指しています。

家畜バイテクセンターで生産された体外受精卵を市内酪農家の乳牛に移植し、産子は100日齢前後で市内肥育農家に買い取られ、肥育されます。

平成15年度は35頭に体外受精卵の移植を行い、受胎率は67%、平成16年度は85頭（倍増！）に移植し、受胎率は53%と好成績でした。

すでに50頭の体外受精卵産子が生まれており、そのうち1頭は今年4月に横浜市中心卸売市場食肉市場へ出荷され、格付5等級の評価を得て、市内のスーパーマーケットで販売されました。

受卵牛の飼育をする人、移植をする人、哺育・育成をする人、そして肥育をする人...すべての過程において、それを行った人の顔が見える安心感、生産された産子が、定められた計算式を基に直近の体外受精卵産子スモール市場の販売価格を参考にして適正に評価され、安定した価格で販売できる安心感、それらがこの地域の取り組みを支えているのでしょうか。

このように、行政・畜産農家・当団の連携体制のもと始まった、市内で生産から流通まで完結するシステム...今後も横浜市内産の体外受精卵産子が次々と生まれ、市内で肥育される予定です。



横浜市の酪農家は  
体外受精技術を用いて、  
こんなことにも取り組んでいます。

乳用種性別体外受精卵(雌)の生産  
登録牛で優良な血統だが、繁殖障害によりどうしても手放さなければならなくなった乳用種をと畜して、性別別体外受精卵(雌)を3卵生産し、新鮮卵で移植しました。



横浜食肉市場に初出荷された体外受精卵産子の枝肉



種雄牛	性別	月齢	格付	枝肉重量	枝肉単価	枝肉販売金額
安福165の9	去勢	24	B5	380kg	2,480円	942,400円



長野県では新緑が最も美しい6月初旬、北安曇郡白馬村の育成牧場で南信酪農協管内の酪農家から預託されたホルスタイン育成牛に、体外受精卵の集中移植が行われました。

この育成牧場は世界的にも有名な八方尾根スキー場を利用しており、リフト運営会社が設立した牧野組合が運営しています。オフシーズンである夏季に何とかスキー場の有効活用ができないだろうか考えたリフト会社が、牛の放牧という発想をしたのです。放牧した牛が草を食べるため、除草のコストを削減することもできるというメリットもあります。

今年は例年よりスキー場の雪が消えるのが遅かったため、入牧時期が遅れましたが、5月下旬に56頭が入牧しました。受卵牛には発情同期化処理を施し、最終的には17頭に新鮮卵移植が行われました。今回利用したのは、家畜バイテクセンターで生産した性別別黒毛和種体外受精卵(雄)です。

南信酪農協では平成5年より体外受精卵を移植しており、生まれた産子は長野県内の肥育農家へ販売しています。県内には肥育農家も多く、乳牛に黒毛和種体外受精卵を移植することで酪農家と肥育農家がうまく連携していると言えます。また、管内肥育農家が平成14年から体外受精卵産子枝肉共励会に出品しており、地域内で肥育まで完結できる体制ができました。今年7月の東京共励会では、出荷した産子がA4に格付されました。10月の大阪共励会にも出荷予定となっており、今後の成績が楽しみです。

# スキー場を利用した育成牧場での移植の取り組み

NAGANO



リフトの間で牛達は草を食べていました。



「今年の娘は人懐こくって困るよ〜。」  
牛を追うのにも一苦労です。



八方尾根には長野冬季オリンピックのジャンプ競技に使われたジャンプ台もあります。

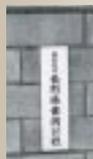


南信酪農協指導管理室の市岡次長。  
体外受精卵移植を中心となって行なっています。  
平成16年度の受胎率は凍結卵で48%、新鮮卵で62%と好調でした！

南信酪農協管内の酪農家は、体外受精技術を用いて、こんなことにも取り組んでいます。

## 乳用種性別体外受精卵(雌)の生産

遺伝的形質を残したいホルスタイン種が廃用になる際、それらを長野県食肉公社松本支場でと畜し、性別別体外受精卵(雌)を生産しています。平成16年度は新鮮卵を6卵、凍結卵を12卵生産し、移植しました。



## 第7回東京体外受精卵産子枝肉共励会における枝肉販売成績

種雄牛	性別	月齢	格付	枝肉重量	枝肉単価	枝肉販売金額
美津福	去勢	30	A4	392kg	2,060円	807,520円



# 第33号

## 2005年8月

発行元 社団法人 家畜改良事業団 家畜バイテクセンター  
〒140-0002 東京都品川区東品川3-21-10 ヤダビル3F  
TEL 03-3740-2709 FAX 03-3740-2719



花火待つ  
水と流れし  
ものたちと



## News 畜産新技術開発活用促進事業について

### 平成16年度の受胎率まとまる

昨年度から開始された「畜産新技術開発活用促進事業（性判別体外受精卵等の利用体制の確立）」の受胎率がこの程まとまりましたのでお知らせします（なお、データは本年7月15日現在のものです）。成績は下の表のとおりです。

昨年度は32団体が事業に参加し、合計で1,395頭の移植実績がありました。受胎率は全体で43.2%でした。移植頭数が一番多かったのは「肉用種性判別体外受精卵移植」でした。これは「種雄牛のみ判別体外受精卵」を性判別し、雄と判定した体外受精卵（一部の団体では雌）を移植するものです。これにより生産される子牛はほぼ100%の確率で雄であり、子牛を販売しても、自家肥育をしても販売面で有利になることが期待されています。

表・平成16年度畜産新技術開発活用促進事業（性判別体外受精卵等の利用体制の確立）の受胎状況

種類	移植頭数	受胎頭数	妊否不明頭数	受胎率
肉用種性判別体外受精卵	1,299	538	77	44.0%
乳用種性判別体外受精卵	44	8	6	21.1%
肉用種登記可能体外受精卵	52	19	4	39.6%
合計	1,395	565	87	43.2%

### 編集後記

3大会連続で日本がワールドカップドイツ大会への切符を手にしたとき皆さんもきっとテレビに釘付けではなかったでしょうか?もちろん私もですが、来年の6月が待ち遠しいものです。思い返せば2002年のあの日韓大会から早3年が経過しました。

時が流れるのは早いもので、日韓大会の少し前、畜産業界では口蹄疫・BSEと受難の時代があったわけですが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という言葉の通り、その時期さえ乗り切ってしまうと何となくその時のことは忘れてしまいます。あの時は体外受精卵がこの先どうなるのかと、お先真っ暗でした。が、今では性判別卵の販売まで手掛けるようになり、当時は想像できなかったことが続々と日常の中に入り込んできています。今年度、体外受精卵の利用は順調で、このままの状況で推移すれば過去最高を記録できそうな勢いです。平成13年もBSE騒動前までは同じような勢いで推移していました。今年度は何事もなく一年が過ぎることを願っています。もちろん読者の皆さんにも。

### 平成17年度はすでに 継続スタート

「乳用種性判別体外受精卵移植」は酪農生産基盤改善支援対策事業へ移行新規団体の事業参加も受付中です。

平成16年度の畜産新技術開発活用促進事業（性判別体外受精卵等の利用体制の確立）では次の3区分で事業が実施されました。

肉用種性判別体外受精卵移植（性判別をした肉用種体外受精卵を移植するもの）

乳用種性判別体外受精卵移植（優良な乳用種雌牛をと畜した際、体外受精卵を生産、さらに性判別を実施し、雌と判定された体外受精卵を移植するもの）  
肉用種登記可能体外受精卵移植（登録を有する肉用種雌牛をと畜した際、体外受精卵を生産し、移植するもの。生まれる子牛は子牛登記が取得可能。）

今年度もとについてはすでに継続事業としてスタートしています。

今年度は上記のうち「乳用種性判別体外受精卵移植」が「酪農生産基盤改善支援対策事業」に移行することになりました。この事業では、計画に基づき性判別体外受精卵の導入に対して、1万円/卵の補助を行う形で実施されます。事業実施主体は「都道府県の区域の全部又は一部をその地区とする農業協同組合若しくは農業協同組合連合会並びに都道府県知事が適当と認める団体」と定められています。

なお、いずれの事業も詳細については、お近くの種雄牛センター、家畜バイテクセンター、または技術情報部までお問い合わせ下さい。上記の事業の参加はこれからでも可能です。ぜひこの機会にご検討下さい。